

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経営学）

氏名：鎌田直矢

学位論文題名

サプライチェーン・マネジメントにおけるインテグレーションと

成果の関係

本研究は、日本における加工食品のサプライチェーンを分析対象とし、サプライチェーン・マネジメント（以下、SCM）におけるインテグレーション（統合）と成果の関係を実証的に明らかにすることを目的とし、6章から構成されている。

第1章では、研究の目的と背景について述べた。

第2章では、SCMにおけるインテグレーションと成果についての先行研究をレビューした。はじめに先行研究を類型化し、文献レビューの対象とする研究の範囲を明確にするとともに、その全体像を概観した。具体的には、①職能間統合の研究、②企業間統合の研究、③サプライチェーン統合の研究についてレビューを行い、それらについて批判的に検討し、先行研究の課題を明らかにした。

第3章では、本研究の分析枠組と研究方法について述べた。この章では、第2章で行った先行研究の批判的検討に基づいて明らかとなった研究課題にアプローチするための分析枠組を構築した。その後、この分析枠組に沿ってSCMにおけるインテグレーションと成果の関係を実証的に明らかにするための研究方法について述べた。

第4章では、東証一部上場の食品製造業を対象としたパネル分析を実施した。パネル分析では、各社の有価証券報告書に記載されている財務データをもとに在庫リーンネスと売上高営業利益率（以下、ROS）関係を分析した。パネル分析の結果、在庫リーンネスとROSの関係パターンは、業界によって異なることが明らかになった。

第5章では、第4章のパネル分析だけでは明らかにすることができなかった次の2点を明らかにする目的からケーススタディを行った。第1に、なぜ、在庫リーンネスとROSの関係パターンは、業界によって異なるのかについて検討した。第2に、SCMにおけるインテグレーションはどのように形成され、いかにして成果に影響を及ぼすのかについて検討した。第4章のパネル分析では、在庫リーンネスとROSの関係パターンは業界によって異なることが明らかとなった。しかし、なぜ業界ごとに在庫リーンネスとROSの関係パターンが異なるのかは明らかとなっておらず、まずこの点について検討した。次に、ケーススタディを通して、SCMにおけるインテグレーションを通して在庫リーンネスはどのように変化し、いかにROSに影響を及ぼすのかを明らかにした。なぜならば、これらのこのことを明らかにすることによりはじめて個別企業の視点から見て、どのようなインテグレーションが必要であり、それをどのよう

に実現すべきかというインプリケーションを得ることが重要だからである。

第 6 章では、本研究の結論を要約するとともに本研究の貢献および問題点について述べた。